

【O10】「音楽療法における ICT 活用を考える」

【講師】名嘉 三月

【要旨】

ICT とは Information and Communication Technology (情報通信技術) の略であり、インターネットやアプリ、SNS 等を活用したコミュニケーション手段を指します。音楽分野においては、音楽制作、演奏、配信、教育、仮想現実/拡張現実体験等が挙げられます。

筆者は訪問音楽療法にて脳性麻痺のクライアントと共に 10 年以上、ICT や支援機器を研究してきました。その経験を基に考察し、ICT の可能性について言及します。

音楽療法における ICT は、セラピスト(以下、Th)が活用する場面とクライアント(以下、CI)が活用する場面に大別できます。以下に主な例を記載します。

CI が活用

- ・デジタル機器による代替: 楽器や音楽素材をタブレット端末等で代替し、身体的に制約のある CI の音楽表現を支援します。
- ・音楽ツールの活用: 音楽ソフトやアプリ、電子楽器等を活用し、CI の表現を支援し、体験の幅を広げます。
- ・オンライン: 音楽療法を遠隔で受けることが可能です。コミュニティ等を通して友人との繋がりを広げます。
- ・支援機器の活用: 入力機器(スイッチ等)、接続機器(ワイヤレス受信機等)、出力機器(楽器の音等)を組み合わせることで、CI の動作、伝達、表現を支援します。

Th が活用

- ・データ管理: 楽譜や記録等を効率化し、セッションの質向上に繋がります。
- ・情報共有: 職種間での情報共有を円滑にし、連携を強化します。
- ・自己研鑽: 遠隔講習会やスーパービジョンによる自己研鑽を促進し、知識や技術の向上に繋がります。
- ・遠隔セッション: 遠隔音楽療法の実施や、実習に活用します。

音楽療法における ICT 導入にあたっては、CI の身体的、認知的な状況を考慮し、適切な機器を選定することが不可欠です。予算に応じた機器の選択や補助金制度の活用も視野に入れるでしょう。また、CI の心理的な負担や倫理的な問題、認知的な理解度にも配慮し、慎重に進めることが求められます。導入後は試行錯誤を繰り返し、CI と共に機器の調整や活用方法を検討していくことが重要です。

Th は、CI のニーズを尊重し、「したい」を「できる」に変える環境を整え、共に音楽を奏でることが求められます。ICT を活用することで、CI は選択肢が広がり、新たな可能性が引き出され、音楽体験の質向上が期待できます。この講習会が、臨床における ICT 活用の一助となることを願っています。

【プロフィール】

日本音楽療法学会認定音楽療法士。ノードフ・ロビンズ音楽療法士。
洗足学園音楽大学ピアノ科卒業。同大学音楽療法士(補)資格取得準備講座修了。現在、国立音楽大学大学院博士後期課程(音楽療法)に在籍。障がい児・者領域、高齢者領域、精神科領域にて音楽療法を実践している。訪問音楽療法にて脳性麻痺のクライアントと共に ICT や支援機器を研究し、試行錯誤を続けている。

